

校長室より

「二松から飛翔へ」

二松学舎大学附属高等学校
校長 鶴飼教之

卒業生からのエール

3月に入り、不安定な天気が続き卒業式の1週間後には都心も今シーズン2度目の雪化粧となりました。しかし、着実に春の足音が近づいているのも確かなようです。予報によると週末は20度を超える陽気となり、靖国神社のソメイヨシノも3月20日が開花予想となっています。

さて14日、答案返却日で5日ぶりに登校した生徒諸君でしたが、廊下で耳をそばだてると「やったー」、「ヤバ〜イ」など一喜一憂の音が聞こえてきました。テストはやりっ放しにせず、間違いを復習し、弱点を作らないことが、先の受験にも役立つことでしょう。



そこで、受験の話題。2年生は本番まで残り1年といったタイミングとなりますが、進路指導部主催の「卒業生から後輩へ」と題した会が開催されました。先日卒業したばかりの卒業生をお招きして、大学選びから受験の振り返り、部活動との両立など受験に向けた心構えなどを聞き、生徒諸君は自覚する機会となりました。冒頭、進路指導主任の真瀬垣先生からは、「ついこの間まで同じ学び舎にいた先輩たちから生の情報を聞ける機会を大事にしてほしい。ここに集まった君たちは、受験に向けた意識の高い皆さんでもある。自信をもって受験へのスタートを切り、よい刺激にしよう」と激励の挨拶がありました。

参加してくれた卒業生は橋本さん、志賀君、小山君、岩澤君、小野君、牧野さんの6名。2週間前に本校を巣立ったOBですが、大きく見えました。

友松先生の司会でテンポよく会は進み、大学選びについては、「大学研究室の教授の指導を受けたい」、「より高いレベルで経済の流れを学びたい」、「高1の時に触れた映画の世界や建築の道を追いたい」など、大学で学ぶ目的が明確であることを強く感じました。目的があるとそれに向けて頑張れるのでしょう。具体的な受験勉強を尋ねると、部活と両立しながら、引退後は集中して勉強に取り組み1日10時間の猛勉強をしたとの話が聞かれました。今回は一般受験で進学した方が多かったのですが、総合型で受験したOBからは、「総合型は受験のチャンスは増えるが、最後は一般入試も視野に」とのアドバイスがありました。

現役生から、学校の考査と受験勉強との兼ね合いの質問がだされましたが、「考査は苦手な課題を見つける機会にもなる」との答えをもらえました。また、「資格、特に英検の資格取得が重要」との指摘がありました。「単に級の取得に留まらず、より高い“スコア”獲得が受験にも活用できる」ことが紹介されました。さらに「classiの学習時間の記録が勉強習慣を付けることになる」と、日頃の学びが受験にもつながっていることを改めて気づかせてくれました。

最後に先輩方からは、「受験は感謝を忘れず、仲間を作って、最後まで諦めずにやるしかない!」とのメッセージをいただきました。

4月からいよいよ大学生になる6名のOBの皆さん、忙しいところ現役生のためにありがとうございました。それぞれ新たなステージでご活躍を!!

会場を後にした2年生に声を掛けると、「よい刺激になりました。頑張ります」との力強い返事が聞けました。

